

3 地域経済の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 8 月）	今回（平成 15 年 11 月）	
観光	一時的に減少	おおむね横ばい	
住宅建設	増加	おおむね横ばい	

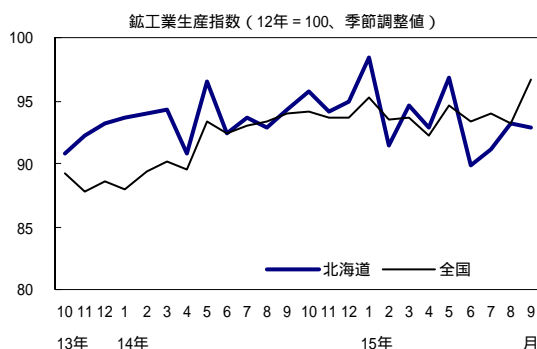
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産、水産業ともに前年を上回っている。

生乳生産は、飲用牛乳等向け、乳製品向けともに増加し、7 - 9 月期の生産量は 994,098t で前年を 2.6% 上回っている。水産業（主要 9 港主要品目）は、タラ、スケトウダラ、スルメイカが増加、カレイ類が減少し、水揚量は前年を上回っている。なお、サンマは豊漁により価格が低迷している。

(2) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

食料品・たばこは、塩蔵品や冷夏の影響を受けたビールが低下し、減少している。パルプ・紙は、新聞巻取紙、段ボール箱、板紙が上昇し、増加している。電気機械は、水晶振動子やプリント配線板が上昇し、引き続き好調を保っている。窯業・土石は、公共工事や民間投資が依然として低調なものの、前期比では生コンクリート、パイル、護岸用コンクリートブロックが上昇し、増加している。金属製品は、食缶、鉄塔、スチール建具が低下し、減少している。



（備考）平成 15 年 9 月の北海道は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

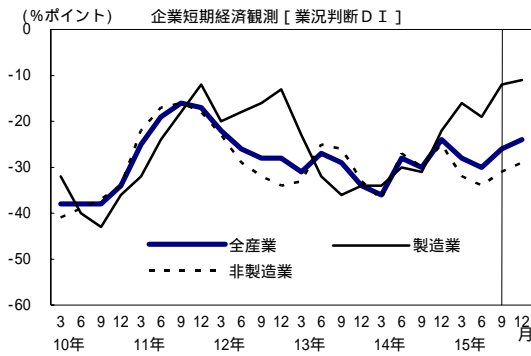
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
食料品・たばこ	26.5	4.8	3.8	6.1	0.8
パルプ・紙	12.1	3.7	2.5	3.1	0.9
電気機械	9.5	3.4	4.6	5.6	8.3
窯業・土石	9.0	1.9	1.2	2.5	1.1
金属製品	9.0	4.8	2.5	4.6	16.6
鉱工業	100.0	1.7	0.9	2.4	0.2

（備考）1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

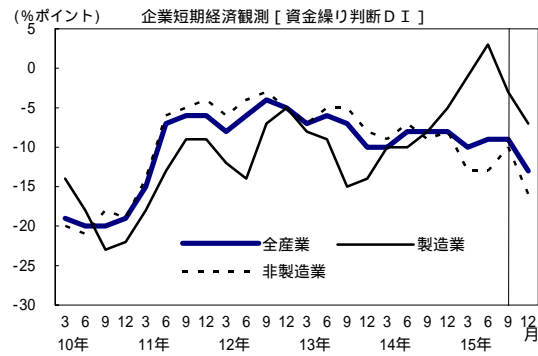
2. 7~9 月期は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

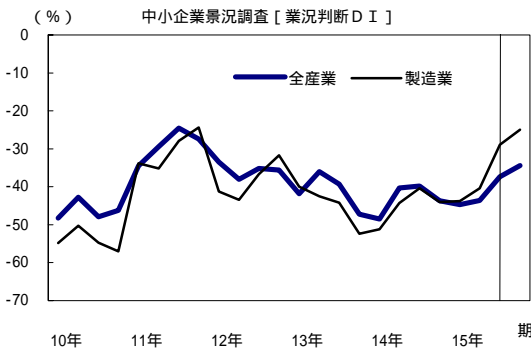
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年12月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「建設業界の一部では台風・地震災害の復旧受注が増加しているが、被害地域では個人消費や観光関連が落ち込んでいる (金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

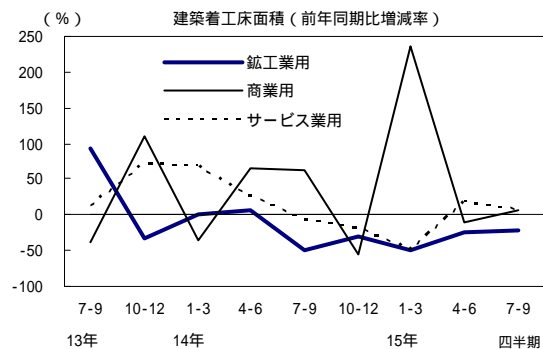
(4) 設備投資の15年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

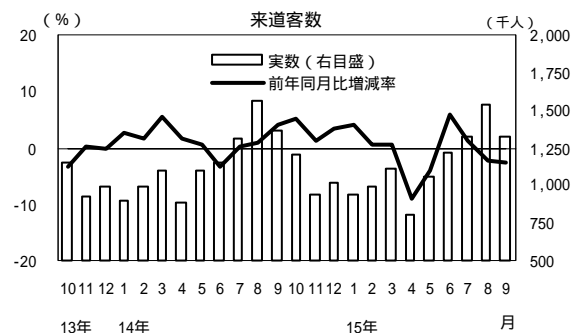
	14年度実績	15年度計画
全産業	9.5	17.2 (2.8)
製造業	5.1	26.9 (3.4)
非製造業	11.7	12.0 (2.5)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光はおおむね横ばいとなっている。

SARS (新型肺炎) 終息に伴い、海外からの客が好調に推移する等の持ち直しの動きをみせていたものの、冷夏により避暑のために北海道を訪れる客が減ったことに加え、台風10号と十勝沖地震による被害もあり、おおむね横ばいとなっている。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

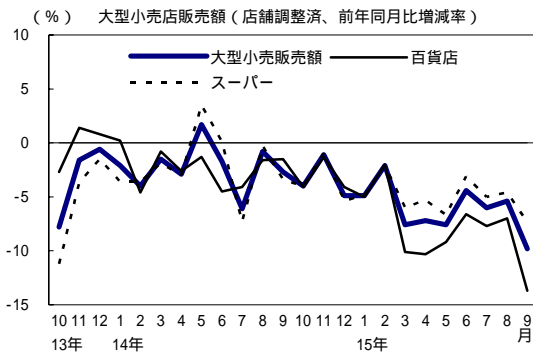
百貨店は、7月は、天候の影響により家電等で動きが鈍い商品が出たものの、婦人・子供服を始めとした衣料品や身の回り品が堅調に推移した。8月は、秋物の衣料品等に動きがみられたことから、全店ベースの前年比で3.1%増となった。9月は、昨年の店舗リニューアルやプロ野球チーム優勝によるセールスの反動と、天候不順のため前年を下回った。

スーパーは、9月に飲食料品が全店ベースの前年比で36か月ぶりに減少したほか、衣料品や身の回り品も低調で、前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「この時期になると、来春に向けての新築準備や雪が降る前までの改修等の動きが出てくるが、例年とそう変わらない動き方ようだ(設計事務所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

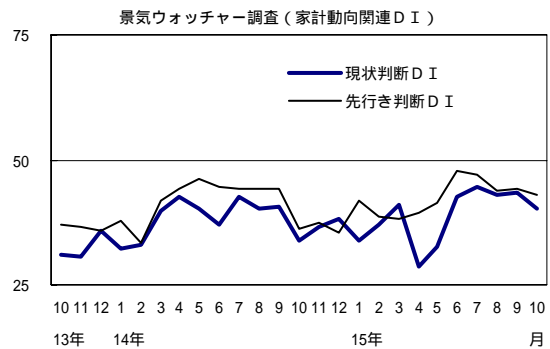
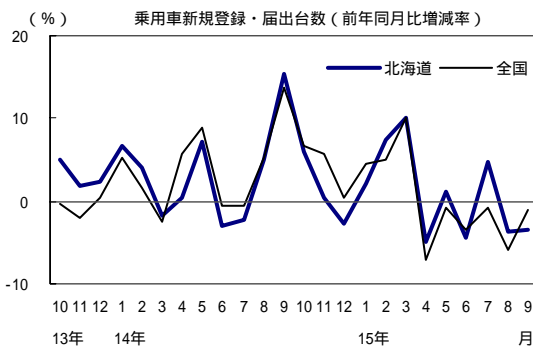
(前年同期比増減率、単位：%)



	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	3.5	5.1	6.4	7.1
百貨店	3.2	6.1	8.7	9.5
スーパー	3.7	4.5	5.0	5.7
乗用車	1.4	7.8	2.8	0.6
景気ウォッチャー	36.1	37.4	34.6	43.7

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

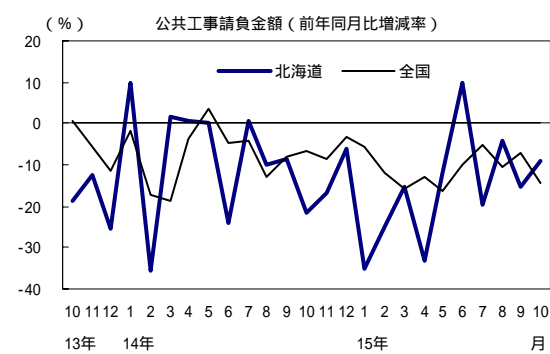
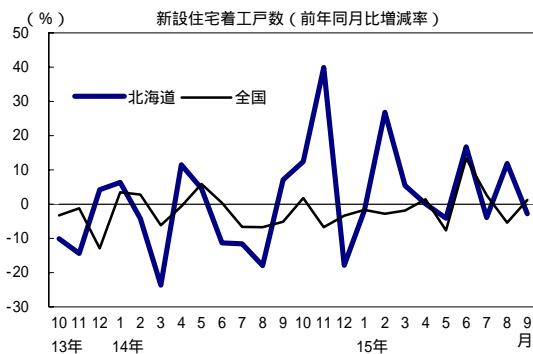
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家が前年を下回ったものの、分譲と持家が上回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

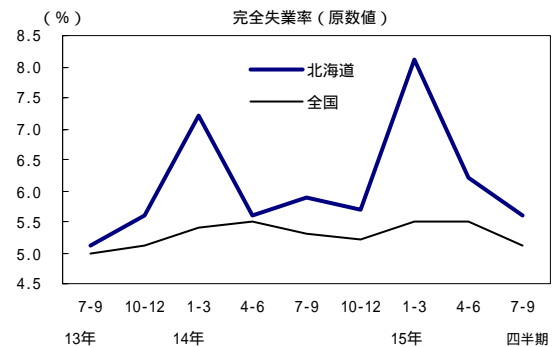
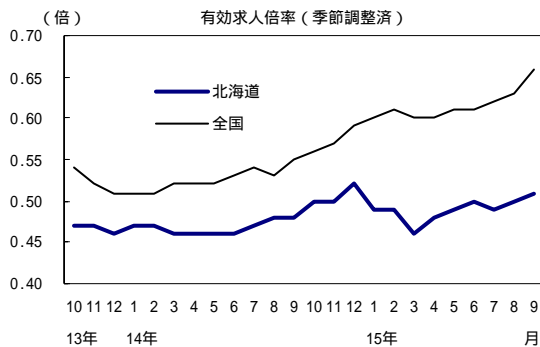


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

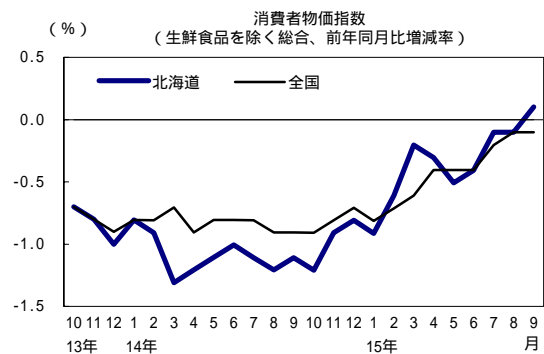
「依然として、中小零細企業の廃業が多い。倒産、破産といった表に出る場合と違い、いつの間にかという感じでの閉店、閉鎖が多い(新聞社[求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が横ばいとなっている。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月	15年10月
倒産件数	151	214	191	145	46
(前年比)	25.6	6.5	2.7	20.3	17.9
負債総額	1,026	1,105	2,610	448	171
(前年比)	66.0	24.6	337.8	0.0	76.4



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計D I(特徴的な判断理由)]

<現状>

・10年ぶりの美しい紅葉もあり、観楓会に期待したが、それほどでもなかった。ただし、宿泊人数は5%程度の減少となったものの、単価は下げ止まった感がある(観光型ホテル)。

<先行き>

・水産物最大の需要期である年末ギフトの時期を迎える。一般家庭への贈物件数と単価はほとんど変わっていない上、産地直送食品への移行が進んでいる(食料品製造業)。

